

2020年7月10日

# 寺島実郎氏 講演会 新型コロナウイルス 問題からの脱却 —新しい世界戦略— 一般財団法人日本総合研究所会長 寺島実郎氏



世界情勢や経済について幅広い知見を持ち、多くのメディアで提言している寺島実郎先生。

「新型コロナウイルスの流行で世界経済は縮小しました。いまは、周囲に迷惑をかけないように自制をしながら、どう経済活動ができるか常に意識した行動が大切」とした上で、今後の経済戦略についてお話しくださいました。

はじめに、新型コロナウイルス問題と向き合う時に気を付けたいことは、デジタルによって効率化する、プロセスを組み立てることは必要ですが、リアルな現場を支える気迫があるからこそ経済は動くことを忘れてはいけません」と具体例をあげて、デジタルによるパラドックスを起さないためには、リアルな現場を観察することが大切と言いました。

「いまは発想の転換が必要な時期にきています。日本で蓄積された技術力や体験を活かして、国民の生活や命、幸福を支える産業が何かを常に考えること。これが将来的に日本を支える大きな産業になるだろうと感じています」とし、「今後、経済活動を進める上では、人生100年時代に必要とされるサービスが何かを考えて行動するのもよいでしょう。デジタルを組み合わせたサービスをイメージして具体化するなどの構想力が必要です」と経営のヒントをくださいました。

について、次のように話しました。「今後、新型コロナウイルスとの共生を前提に経済活動が進んでいくでしょう。経営者に必要なことは、世間に出回っている情報を鵜呑みにせず、データなどから本当に正しいかどうかをよく確認することです」

## テレワークは デメリットも大きい

テレワークの時代が到来しましたが、テレワークはデメリットも大きい

と言います。

「企業にとつてのテレワークのメリットの一つに、家がオフィス代わりにありますから、都心の高い家賃を払わずに済むことですね。気にしたのにはデメリットの方です。経営者のリーダーシップが弱いと、社員の足並みがバラバラになる可能性があります。つまり、コミュニケーションができていないようで、実は出来ていないというパラドックスが起こりやすくなるのです。これを踏まえてテレワークを推進するべきでしょう」

## リアル+ デジタルの時代に

日本はデジタルトランスフォーメーションに乗り遅れたと言われていますが、コロナ禍でデジタル至上主義になりつつあります。しかし、すべてをデジタルにする考えは危険

だと警笛を鳴らします。

「経営者にとつて一番重要なのは、

これからはデジタルの利便性とリアルの優れた点の両方を生かす時代になるという視点を持つこと」と強調します。

「例えば、東京にいるみなさんがECサイトで食品を買うときを考えてください。食料自給率1%の東京都

会社を辞める大きな原因にリーダーが指導法を学んでいないことがあると言います。

「さとり世代入ったとか、ジェネレーションギャップあるとか、新人はすぐふてくされるなど、指導技術がないリーダーは言い訳をしがちです。育て方を学んだ人はこんなことはないません」

「自分の存在価値と、ここにいていんだという安心感を若者は求めています。これを与えることのできるリーダーがいる会社は、給料が決して高いとはいえなくても、離職率が下がる傾向にあります」

当講座は指導法だけでなくリーダー自身が、元気にモチベーション高く働くことを目指す、という裏コンテンツがあると北先生。

「部下が育てば、仕事は順調に進みますし、何よりリーダーとしての自信がつかます」

部下のコーチングのロールプレイングや時間管理の実践など、主に部下の指導法を学びました。

2020年6月11日



## 若手のための リーダーシップ講座②

上司からも部下からも信頼される5つの法則

(株)ポルスターコミュニケーションズ  
代表取締役 北宏志氏

リーダーになりたての人、これからリーダーになる人が、今後リーダーシップを発揮して活躍するためのポイントを学ぶ全3講座の第2回。

「リーダーが部下の育て方、指導法を学ぶことで、会社の離職率が下がります」

新人研修も行う北先生は、若者が